祝辞

元農林水産大臣
衆議院議員
羽田　孜

上田蚕糸専門学校、上田繊維専門学校をへて信大繊維学部へと発展し、この度創立八十周年を迎えられました。この間、地元の産業と深い関わりを持ち、地域の文化拠点としての役割をはたしながら今日に至っていると思います。私の子供の頃は、上田蚕専の運動会といえば市の代表的な行事で、市民がござや弁当持参で見物に行ったものです。殊に羽織、袴、高下駄姿の応援団は子供たちに人気があり、お気に入りの団長の姿を自分もまね、共に運動会の余韻を楽しんだものです。一方、全国から集まった学生は、市内の家に下宿し地域住民と融和し親しまれていました。上田といえば、真田一門と上田蚕専ということで全国に知られていると言っても過言ではないでしょう。しかし、生糸の不振と共に、生糸関連の産業の衰退もあって、学部の推移には目まぐるしいものがありました。特に蚕糸統合問題では、父の後を継ぎ、私の国会での初活動が、繊維学部の存続問題でありました。この過程で私は、生物科学を基礎とする学問は地方にあるべきと考え、盛んに文部省通いをしたものですから、役人から「信大の先生」と揶揄されたほどでした。当時、母袋同窓会理事長とともに尽力された蒲生、猪坂、竹内先生らOBの皆様はすでに他界されてしまいました。しかし、守りの体制では後退を意味し、時代の要請に応える努力がなければ発展はありません。校舎の改築、学科の再編新設と、時代に即応した体制を整え、繊維ばかりでなく、機能高分子、新素材の分野への改組等、二十一世紀へ向けて長年にわたる蓄積が十分活用されるよう希望しております。一方、信大はタコ足大学の最たるもので、その欠点を画像情報ネットワークシステムでカバーし、また、繊維関連では、わが国最高の教育機関としての大学院博士課程も新設されようとしています。今日、繊維学部は世界にも門戸を開き留学生も多く、日本各地、否世界の学徒に第二の故郷を提供すると同時に、郷土発展の礎とすべきであると信じます。